

主 題：空しい人生

聖書箇所：ヤコブの手紙 5章1－6節

いよいよヤコブ書の最後の章に進んできました。今日は5：1－6を見て行きます。

イエスが話されたこんなたとえを覚えておられるでしょう？ある一人の金持ちの畑が豊作だった、彼は考えました、どうしたらいいのだろうと、今、蔵の中にはこの穀物を全部納めきれないから、そこで彼はもっと大きい蔵を造ろう、そして、そこにすべてのものを蓄えておこうと、そして、自分のたましいにこう言うのです、「そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」と。そのとき、神はこんなことを言われました。「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。」と。彼は非常に豊かでした。蔵がいっぱいでした。しかし彼は大切なことを忘れていました。創造主なる神を忘れていました。彼は考えました、これから先楽しく自分の好きなように生きて行けると。しかし、神が彼に言われたことは「愚か者。…」でした。つまり、ここに一人の人生を無駄に過ごした人物の話が記されていたのです。彼は一生懸命に生きて成功を収めたのでしょうか。しかし、神は彼に「愚か者、あなたは無駄に人生を過ごした」と言われたのです。このように無駄に人生を過ごしている人がいるのです。ヤコブはそういうことがないようにと人々に警告を与えるのです。ヤコブはこの5：1から再び、特に金持ちたちよ、と語り始めるのですが、人々に対して、あなたは人生を無駄にしていないか、空しい人生を送っていないか、もしそうだったらあなたには大変な運命が約束されていると、警告するのです。私たちは神の前に正しい生き方をして行こうと常に願う者です。クリスチャンなら皆そうです。しかし、現実には私たちの生活にはいろいろな誘惑があります。私たちが神に従って行かないように、神に喜ばれる生き方をしないようにと誘惑するものが私たちの心の中には存在します。神を知らない、そして、このように富におぼれている人だけではない、私たちクリスチャンにとってもこの誘惑に勝利するのは大変なことです。特に、私たちクリスチャンも気を付けなければいけない誘惑の一つはお金です。

パウロはこのようなことを言いました。Ⅰテモテ6：7－10「私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持つて出ることできません。：8 衣食があれば、それで満足すべきです。：9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。：10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。」と警告しています。読者の中にはたくさんのお金持ちも存在していたのでしょうか。そして、その中には創造主なる神を信じていない人もいたのでしょうか。また、私たちが前回見たように4章でも、商売に関して多くの人がいろいろなことを考えていたこと、それに対するヤコブの注意が記されていました。私たちが残されたこの人生を正しく生きて行くために、私たちは様々な誘惑に負けることのないようにしなければいけません。正しく歩み続けて行くことが必要です。そのためにヤコブが与える大切な警告のメッセージをしっかりと見て行きたいと思います。

ヤコブがこの5：1－6で、この当時の読者に、また今の私たちにも伝えたいことは、私たちが見るべきところをしっかりと見て生きて行くこと、永遠に価値あるものにしっかりと目を留めて生きて行くこと、そのことを教えてくれるのです。

☆ヤコブが与える警告のメッセージ

1. さばきの警告 1節

必ずさばきがあるということをヤコブはここでも繰り返して教えます。1節に「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲慘を思って泣き叫びなさい。」と、さばきがあることの警告が記されています。特にここでヤコブは神を知らない人々、創造主なる神を信じていない人々に対して警告を与えるのです。ここに「悲慘」ということばが出て来ます。苦難、不幸と訳されることばです。このことばは新約聖書ではローマ3：16にしか出てきません。そこでは「彼らの道には破壊と悲慘がある。」とあります。ですから、どちらを見てもこの「悲慘」というのは非常な不幸、苦しみです。そのようなものが約束されているのです。だれに？創造主なる神を受け入れない、罪の赦しを得ていない人々に対してです。これは神のさばきです。また、ここに「泣き叫びなさい」と記されています。ここには二つの動詞が使われています。「泣く」と「叫ぶ」です。「泣く」は実際に涙を流すことです。悲しみの表現です。「叫ぶ」は新約聖書にはここにしか出てこないことばです。一般的にはこれは、喜びと悲しみの両方に使われるのですが、特に、70人訳（旧約聖書をギリシャ語に翻訳したもの）を見ると、「激しい悲しみ」だけを表わすことばとして使われています。激しい悲しみをもって叫び続けている様子をヤコブは表わ

すのです。なぜなら、神のさばきが来るからです。旧約聖書、イザヤ 13：6には「泣きわめけ。主の日は近い。全能者から破壊が来る。」とあり、また、エレミヤ 4：8にも「そのために荒布をまとい、悲しみ嘆け。主の燃える怒りが、私たちから去らないからだ。」と記されています。

ですから、ヤコブがこの1節で教えることは、神を信じていない金持ちの人たちに対して、創造主を自分の神とするのではなく物を自分の神としている人に対して、あなたたちには間違いなくさばきがやって来る、神の審判がやって来るということを明らかにして、彼らに警告を与えたのです。そして、この「泣く」と「叫ぶ」という二つの動詞が並んでいることは、特にヤコブが、この人たちには将来が全く悲惨であり、希望がないことを強調するためにそのようにしたのです。神に心を開いていない人々、神の罪の赦しを拒み続けている人々、あなたたちの運命は悲惨である、それは苦しみであり不幸でしかない、なぜなら、あなたの罪はさばかれてあなたは永遠の地獄で過ごさなければいけないからと、ヤコブはこのことをまず警告するのです。そして、2－3節でさばきの現実を教えようとします。

2. このさばきは現実のもの 2－3節

さばきがただの脅しではなく確実に訪れることを教えるのです。「2 あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。」、ここには三つのものが出てきました。これはこの当時、東方においては非常に価値あるものとして人々が宝としたものです。(1)「あなたがたの富は腐っており」と、腐るものとは食べ物、穀物です。初めにルカ 12：16から見ましたが、どんなにたくさん蓄えても、その当時は冷蔵庫などないときです、腐ります。そのことを言うのです。そして(2)着物、これもこの当時人々の間では非常に高価で宝とされたのです。ヤコブは言います、「着物は虫に食われており」と。三つ目は(3)金銀、これも彼らの宝でした。でも「金銀にはさびが来て」とあります。これら三つの彼らが宝としたものがいかに空しいものであるかをヤコブは教えるのです。そして、彼はこのように言います。「そのさびが、あなたがたを責める証言となり、」と。さばきのときに、あなたが仕えて来たこのような宝があなたにある証言を与えると言うのです。裁判の場で証言に立つ証人として描いてみてください。穀物が着物が金銀が証言することは、このようなものに頼って来た生き方が間違っていたということです。そのことをヤコブは言うのです。どんなにすばらしい着物を手に入れたとしても、それは永久に続くものではありません。どんなに食べ物を蓄えても永久に続きません。どんなに金銀を蓄えても同じです。だから、彼らがさばきの場で言うことは「私たちはあなたにとって最も大切なものではなかった、私たちに頼って生きていた生き方は間違っていたのだ」と証言すると言うのです。永久に続かないもの、古くなって行くもの、それらが私たちに永遠のいのちを与えることなどできません。そして、「あなたがたの肉を火のように食い尽くします。」と、「火」というのは神のさばきを象徴します。あなたがたが大切にしてきた宝が「私たちは本物ではない、最も価値あるものではない」と証言するだけでなく、その間違ったあなたがたの生き方に対して神のさばきが下るのだということをヤコブは教えているのです。

ソロモンは箴言 11：28でこのように言いました。「自分の富に拠り頼む者は倒れる。…」と。最初に見たルカ 12：6－21の金持ちの話、これで安心といった彼に神は「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。」と言われました。彼に待っているのは楽しむことではありません。自分の罪の生き方に対する神の審判、神ののろいでありさばきです。だから、パウロはⅠテモテ 6：17でこのように教えます。「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」と。この世の富はあなたに一時的な喜び満足をもたらしても、永遠の喜びも満足も、そして、罪の赦しを与えないのです。また、箴言 10：22には「主の祝福そのものが人を富ませ、人の苦労は何もそれに加えない。」とあります。必要なことはこの世からの祝福ではないのです。神ご自身の祝福です。創造主なる神が私たちを祝福してくださる、その祝福こそが永遠に続くものです。それを求めなさいというのです。マタイ 6：20に「自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。」とイエスの教えがあります。地上のことばかり考えて、どれだけ銀行の預金に蓄えるかとか、老後のためにと一生懸命蓄えても、神はそれよりもっと大切なものがあると言われるのです。天に宝を積みなさいと。なぜなら、あなたの地上での生活は永遠から見ると一瞬のうち、その一瞬のことを考えるより永遠のことを考えなさい、地上にどれほど宝を積んでもあなたが死んだらそれはあなたのものにはならない、天に宝を積むならそれは永遠にあなたのものだからと。もし、私たちがこのことを忘れて地上のことばかり考えているなら、このヤコブの警告をしっかりと覚えなければなりません。間違いなくその人たちには神の審判が下るということを。3節に「あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。」、自分が楽しむために財宝をたくわえているが、それを楽しむことはできないと。

ですから、この2－3節でヤコブが教えることは、私たちはすべて神の前で審判を受けるということ

です。さばきは必ずあるのです。

3. さばかれる理由 4－6節

なぜ、この人たちがさばかれるのか、もちろん、それは罪のゆえですが、どんな罪を彼らが犯しているのか、4－6節を見ると四つの罪が教えられています。（1）賃金の未払いの罪がある＝4節に「**見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。**」と書かれています。この「未払い」ということばを見ると、彼らがただその支払いを遅らせていたというのではなく、彼らは支払いを全くしていなかったと言うのです。この金持ちはお金をもっているのに、欲深から、自分の畑で働いてくれた人々にお金を払うことを惜しむのです。払わないのです。この当時、そのように畑で働いた人々は貧しかったのです。その日当でやっと生活することができたのです。だから、みことばは繰り返し彼らにきちんと賃金を払いなさいと命じています。たとえば、申命記24：14－15ではこのように教えています。「**貧しく困窮している雇い人は、あなたの同胞でも、あなたの地で、あなたの町囲みのうちにいる在留異国人でも、しいたげてはならない。：15 彼は貧しく、それに期待をかけているから、彼の賃金は、その日のうちに、日没前に、支払わなければならない。彼があなたのことを主に訴え、あなたがとがめを受けることがないように。**」と。神の教えは明確です。彼らは貧しかったからきちんと彼らに日当を払いなさい、それによって彼らが生活できるようにと。ところが、この金持ちたちはそれをしなかった、とても欲深かったのです。そして、（2）貧しい者たちを苦しめていた＝旧約聖書の中で繰り返し教えられていることは、貧しい人たちに施しをしなさい、彼らの必要に答えて行きなさいということです。申命記15：9－11に「**あなたは心に邪念をいだき、「第七年、免除の年が近づいた。」と言って、貧しい兄弟に物惜しみして、これに何も与えないことのないように気をつけなさい。その人があなたのことで主に訴えるなら、あなたは有罪となる。：10 必ず彼に与えなさい。また与えるとき、心に未練を持つてはならない。このことのために、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださる。：11 貧しい者が国のうちから絶えることはないであろうから、私はあなたに命じて言う。「国のうちにいるあなたの兄弟の悩んでいる者と貧しい者に、必ずあなたの手を開かなければならない。」とあります。また、マラキ書3：5にも「わたしは、さばきのため、あなたがたのところに近づく。わたしは、ためらうことなく証人となり、呪術者、姦淫を行なう者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人をしいたげ、やもめやみなしごを苦しめる者、在留異国人を押しつけて、わたしを恐れない者たちに、向かう。——万軍の主は仰せられる。——」とある通りです。みことばが教えることに逆らっていたのです。そこで、4節の後半「**そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。**」と、苦しんでいる彼らが叫ぶ声は万軍の主の耳に届いているとヤコブは言うのです。「万軍の主」ということばをもって神のことを表わしています。天の軍勢を指揮している方、全能で力強いお方、すべてのことを導かれる指導者、そのような意味をもったことばです。その神の耳にその人々の叫び声が届いていると。だから、あなたはさばきを免れることはできないということです。なぜなら、あなたたちが行っているすべての罪はわたしの前で明白だと言うのです。（3）偶像に仕えた＝5節「**あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。**」、彼らはお金や快樂を追い求めこれに仕えたのです。これらを神よりも愛したのです。神への従順よりも放縱の生活を選択したのです。ここに三つの動詞が記されています。一つは「**ぜいたくに暮らし**」、二つ目は「**快樂にふけり**」、そして、三つ目は「**自分の心を太らせました**」です。この三つの動詞をもってヤコブは彼らの罪を明らかにするのです。**

「**ぜいたくに暮らし**」＝新約聖書ではこのことばはここにだけしか出てきません。人から盗んだものでぜいたくをしていたという意味です。ですから、今見て来たように、この金持ちたちは支払うべき賃金を払わなかったのです。そういう不法を行なって、彼らの賃金によってぜいたくに暮らしていた、このような罪を犯していると言います。

「**快樂にふけり**」＝このことばもこことⅠテモテ5：6にしか出て来ないことばです。彼らは自分の罪深い快樂を満たすことだけに捉われて、人を助けることとか神のために自分に託されたものを用いようとは思わなかったのです。そのような生活をしていたのです。

「**自分の心を太らせました**」＝自分の欲望を満たすことだけに尽くして来たのです。そして、「**殺される日にあたって**」と書かれています。何か連想しませんか？まさにこれから殺されて行く家畜のことです。食用にされる家畜です。それは太らされて殺されて行くのです。ヤコブは食用の家畜がそうであるように、あなたたちも自分の快樂のままに生きて、神を全く無視して自分の好きなように生きて来て、自分を太らせた、そのあなたに待っているのは神のさばきしかないと言うのです。

私たちは生まれながらに、どうすればもっと幸せになるのか、どうすればもっと心が満たされるか、どうすればもっと楽しめるかと一生懸命考えて生きて来ました。でも、ヤコブが今教えてくれたように、創造主なる神を忘れた生き方というのは、悲惨な生き方、空しい生き方です。なぜなら、みことばはこのように教えます。パウロがローマ2：5で「**ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、**

御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」と、あなたの一番大きな問題はここにある、あなたの心が神に対してかたくなであり、あなたが罪を悔い改めようとしないこと、それが問題だと言うのです。そして、あなたは神に背を向けた状態で好きなように生きている、その生き方はこの世では成功したとしても、神の前には神の怒りを積み上げていると。神はあなたを見て、その怒りをあなたの上に積み上げていると言うのです。そして、そのように神に背いて生きた人生には必ず神のさばきが訪れるということを警告するのです。(4) 殺人の罪＝6節に「**あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。**」とあります。「**正しい人**」とは道徳的に正しい人です。彼らを罪に定めて殺したと言います。ある人は、この「**殺した**」というのは賃金を払わないことで彼らが飢え死にしたのではないかと言います。そのようなこともあったかもしれません。しかし、このみことばは「**罪に定めて**」とあり、これは法律用語です。道徳的に正しい人たちを法的に有罪としたということです。というのは、この当時、金持ちたちはその金に物を言わせて法廷に対しての影響力をもっていたのです。自分たちの意に染まない人を有罪に定めて殺すことを行なっていたのです。なぜなら、正しい人たちは彼らには煙たいからです。この後に「**彼はあなたがたに抵抗しません。**」とあります。この正しい人々、神を受け入れて罪赦され、神に従って神に喜ばれようとしている人々は、どんなにひどいことをされたとしても、その仕返しをしない、それは神がしてくださるからと、正しいことをして行きます。そうすると、悪を行なった人たちはその人々を厄介な存在と見るのです。なぜなら、自分たちの上に炭火を積むことになるからです。悪いことをして悪いことを仕返しされたらいいけれど、悪いことをして正しいことをされると困るのです。自分のうちに罪悪感が増し、その煙たい存在を自分の周りから排除しようとしします。その際たるものが人々がイエス・キリストに為したことです。イエスがいることが邪魔だったのです。彼がいると自分たちが責められたのです。そこでこの厄介な存在を取り除こうとするのです。イエスが教えています。マタイ5：38－39「『**目には目で、歯には歯で。**』と言われたのを、あなたがたは聞いています。：39 **しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。**」と。私たちの責任はどんなときにも正しいことをして行くことです。そして、7節からは忍耐ということが教えられています。神の報いの日が近いからです。正しく歩むなら神は祝福をくださる、だから、正しく歩み続けなさいと。しかし、神に心を開かない人々、自分の快樂、罪のままに歩んで行こうとする人たちは、正しい人を快く思いません。それで彼らを迫害し、有罪に定め殺していったと、このような罪を犯していたとヤコブは言うのです。

ここまで1－6節を見てきましたが、ヤコブはお金が罪、お金をもっていることが罪だと言っているわけではありません。特に、未信者の金持ちだったら、彼らに対してあなた方が一番大切にしているお金は、あなたに罪の赦しをもたらさないと、そのことを教えて、同時に神に逆らい続けている現在の生き方に対して、神のさばきが確実に下ることを断言したのです。ゆえに、罪を悔い改めて神に立ち返ることを命じるのです。あなたが持っているものは全部、神があなたに託したものだから賢く使いなさいと言います。今見てきた人たちはそれを自分のために、自分の快樂のために使ったのです。そうではなくて、あなたに神が託されたのは、あなたがそれを神のために用いて天に宝を積むためだということです。私たちは自分に託されているものを神のために正しく用いて行くことが必要なのです。それを天に持って行くことはできないから、この地上にある間、それらを賢く神のために使って行きなさいと、そのことを言っているのです。この地上のことを心配するよりも、死んでから先のことを考えて今をしっかり生きなさいと。私はお金をもっていないからこのことは関係ないと思うのは大きな間違いです。お金に対する誘惑は皆持っているからです。金を愛することがすべての悪の根であるとパウロは言いました。私たちがしっかり覚えておかなければいけないことは、お金に心を奪われないことです。

そして、この世で貧しい人が永遠において豊かになることは可能なのです。そして、その逆もまた可能です。この世において豊かな人が永遠において貧しくなることも…。ルカ16：19から金持ちとラザロの話が出て来ます。二人とも死に、死んだ後どうなったか？金持ちは苦しみの中で目を上げたときラザロが見えました、そして、どうぞ、ラザロを私のところに遣わしてくださいと頼みますが、それができないと言われた、ラザロを私の家族のところに遣わしてくださいと、そのようなやりとりがあった後、アブラハムが彼に言います。6：25「**アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』**」と、つまり、この金持ちはこの世のことしか考えなかった、神のことなど忘れていたのです。確かにこの世においては自由になるものがいっぱいあって、おいしいものを食べたかもしれない、お金があったかもしれない、けれども、永遠の備えができていなかったため、死を迎えたとき苦しみの中に、永遠のさばきの場所にいたのです。ラザロはどうでしょう？地上においては物がありませんでした、しかし、彼は永遠の備えができていたゆえに、死を迎えたときに神の祝福の中に入ったのです。この地上において神に対してどのように生きて来たか、それに懸かっているの

す。イエスはこのように言われました。マタイ 6：21「**あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。**」。あなたの宝はどこにあるでしょう？物に目を留めているならそれがあなたの宝であり、そこにあなたの心があります。しかし、その物はあなたに幸せをもたらさない、私たちはそのようなものから離れて、しっかり神を見上げることです。

ユダヤ教のラビ、教師たちが与えた口伝律法（タルムード）の中にこのようなことが記されています。「一時的な価値しか持たない物質的富のためにあくせくして一生を送るのは無意味である。」とそのことをタルムードはこのようなたとえで話します。「周囲に垣を廻らしたブドウ畑を見つけた狐のようなものである。中に入るには穴が一つしかなく、入ろうと思ってもそれができなかった。そこで狐は三日間食を断ってやせ細ってところで穴をくぐった。中では思う存分食ったのでまた肥えた。外へ出たいと思ったときは体が穴を通らなかった。そこでまた三日間食を断ってから穴をくぐり抜けた。外へ出ると彼は後ろを振り向き、ブドウ畑を睨み付けて言った。ブドウ畑よ、おまえは私にとって何の役に立ったのか、お前のところのブドウの実は何だというのか、中のものは何もかも見事で結構だが、それが何の益になるというのか、人はお前のところに入ったのと同じ姿で出て来るではないか、この世も同じである。人はこの世に生まれてくるときにはあたかも何もかも俺のもの、これを全部いただくとしようとでも言いたげに、両手を固く握り締めて母体を出て来る。この世を去るときは、この世では何一つ得られなかったとでも言いたげに、両手を広げて死んで行く」と、こんな教えがあるのです。

私たちがしっかり覚えなければいけないこと、それは私たちがこの地上の人生をどのように生きて行くかです。しっかり見るべきものを見て生きることです。永遠に価値あるもののために生きることです。それは私たちに託されているもの、持ち物、時間など、人生のすべてが神のものだから、神のために使って行くことです。地上に蓄えることよりも天に蓄えることです。そうしてこの地上を歩むことです。あなたは永遠に価値ある人生を過ごしているでしょうか？無駄な空しい人生を生きてはいないでしょうか？私たちは価値ある人生を歩むことができます。そのためにはあなたが正しく歩む選択をすることが必要です。